


 日本生殖看護学会

ニュースレター

No.

61

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

■■■■■ 目 次 ■■■■■

・「保険適用範囲の拡大」と「生殖医療法」の成立に思うこと	1
・2021年度不妊症看護認定看護師ポストコース研修会報告	2
・2021年度不妊症看護認定看護師ポストコース研修会を受講して	3
・2022年 生殖看護関西地区実践セミナー開催のお知らせ	3
・第20回日本生殖看護学会学術集会	4
・これから行われる学術集会・研修会情報(2022年3月～2022年6月)	5
・研究支援なんでも相談会 開催のお知らせ(将来検討委員会)	5
・2022年度研究助成のお知らせ	6
・理事会報告	7
・事務局からのお知らせ	8
・原稿を募集しています	8
・編集後記	8

「保険適用範囲の拡大」と「生殖医療法」の成立に思うこと

城西国際大学 清水清美

2020年9月、菅前首相の「不妊治療の保険適用発言」、そして同年12月の生殖補助医療法(生殖補助医療の提供等及びこれにより出生した子の親子関係に関する民法の特例に関する法律)の成立は、不妊治療の渦中にある対象患者にとって大きな福音となった。

特に前者は、治療費の削減につながるだけでなく、施設間で異なっていた治療方法や技術が標準化され、診療報酬単価の適正化も期待できる。また、社会で不妊を支えていくという、社会の不妊へのまなざしにも変化を与えると考える。後者は、第三者からの提供卵子や精子で生まれた子の親子関係を明確にするだけでなく、本技術が、家族づくりの一つの形として広く社会に認知されると考える。しかし、様々な課題も浮上している。

4月からの保険適用の拡大に向けて

2月9日、中央社会保険医療協議会は2022年度診療報酬改定を決定した。人工授精・体外受精・顕微授精は保険適用の対象となり、対象の条件として婚姻関係および事実婚の夫婦に限り、体外受精や顕微授精は女性の年齢に応じて回数制限された。そして第三者が提供した精子や卵子を用いた生殖補助医療や、受精卵の染色体異常を調べる「着床前検査」は適用を見送った(時事通信社より)。

保険適用の対象年齢や回数は、現在の補助事業(特定治療支援事業)が踏襲されたものの、検査・治療・薬剤については、ガイドラインを基に「保険適用」「先進医療」「自由診療」に振り分けられた。保険適用されるか、保険適用された治療と併用できる「先進医療」として認められない限りは、不妊治療にかかる費用すべてが自己負担となる。そのためか、現行の助成制度が利用できるうちに駆け込み受診するケースもあると聞く。

「生殖医療法」の成立とその後

本法は、生まれた子の親はだれかを明確にしたが、生まれた子どもが遺伝上の親を知る「出自を知る権利」や「生殖補助医療の規制の在り方」などについては付則事項として2年をめぐりに検討することとなった。実質、提供卵子や精子

を希望するカップルの現状は変わらず逼迫しており、特に提供精子を希望するカップルにおいては、SNSを介した個人間での精子の授受や、民間の精子バンクを利用する人が増加している。なるべく早期に、しかし対象条件を絞ることで、条件外の人が再び水面下で実施することがない制度整備(法整備)を期待したい。

新たな制度の導入に伴い不安を感じている対象患者は多く、治療成績の公開や第三者機関によるチェックシステムの整備などを求めている(NPO法人「Fine」より)。

私たち看護職は多職種と連携し、法律や制度を正しく理解し厳守したうえで、女性やカップルが適切な情報を得て、熟慮し、自己決定できるよう、支援することが重要だと考える。一方、我々の対象には適用外の方もいる。限りある医療費や社会のコンセンサスを得るためにはどこかで線を引くことは止む得ないのかもしれない。しかし、適用外となる女性やカップルこそ我々の支援を必要としている方たちである。彼らへのベストな答えが考えられるよう「寄り添う気持ち」を大切にしたい。また、必要時には彼らの声にならない声を代弁し、行政に現状改善を提案していく力を持ちたいものである。

一人ひとりの力は小さいかもしれないが、患者に直にかかわる私たちだからできることだ。施設間の垣根を超えた情報交換、学び合いの機会を今後も大切にしていこう。

2021年度不妊症看護認定看護師ポストコース研修会報告

日本生殖看護学会教育推進委員会 野澤美江子

2021年度不妊症認定看護師ポストコース研修会「生殖医療・看護の現状から考える『実践力・研究力アップのための方略』」が、2021年12月18日(土)に開催されました。今回は、1. 実践力を向上させる問題解決思考を学ぶ事例検討会の方法を学ぶと共に、事例検討をさらに研究に発展させるための方法を学ぶ、2. 実際の事例検討を通して、実践につながる問題解決思考の実際について体験する、3. 事例検討を研究に発展させる方向付けをイメージできる、という3つの目標を掲げ、感染対策を鑑みWeb開催としました。当日は52人の認定看護師の皆さんが参加してくださり、ありがとうございました。

最初に、聖路加国際大学の青木美紀子先生に「事例検討会の勧め～事例を用いた問題解決思考～」のご講演をいただきました。講演は、「事例検討会は事例を提示する人・検討会に参加する人・事例に登場する人、全ての人にとって「安全」であること、さらに「有益」であること」というメッセージからスタートしました。事例と症例の違い、患者・看護師・関係性・臨床状況といった事例の4局面など事例にまつわる内容を確認した後、事例検討会の具体的な方法について、平成25年度厚生労働省 保健指導支援事業保健指導技術開発事業報告書「実践力UP事例検討会」～みて・考え・理解して～*)を紹介していただきながら、具体的な留意事項をご説明いただきました。改めて、事例提供者になるための準備、事例検討会は事例提供者と参加者の協働であること、参加者の心構えなどを確認することができ、その後の検討会に向けての心構えはもちろん、今後の事例検討会開催に向けても大きなヒントになったのではないかと思います。さらに、事例検討を研究へ発展させるためにはどのようなステップで進めたらよいかなどの示唆を得ることができる内容でした。

次に6つのグループに分かれ、①高齢女性への卵子提供への意思決定支援、②PCOS女性の生活習慣改善と生殖医療への取り組み支援、③乳がん女性の妊孕性温存から胚移植への意思決定支援、④精神疾患をかかえたART妊娠の妊婦のケア、⑤LGBTカップルが家族を構築するための意思決定支援、⑥不育症女性の流産時の支援について事例検討を行いました。いずれも臨床で遭遇する機会の多い事例や、今後生殖看護の中で考えないといけない事例など、対象の特徴をイメージし、対象者への支援を振り返ったり、新たな看護の視点につながる有意義なディスカッションになったと思います。事例提供者の皆様、お忙しい中ご準備から当日の発表までご協力ありがとうございました。そして、ぜひ研究につなげていただけると幸いです。学会発表や学会誌への投稿、お待ちしております。

今回の研修会は、受付から当日の開催まで、業者を介さず、全て教育推進委員の手作りで進めてきましたので、終わるまでドキドキしておりました。しかし、回答いただいたアンケートの結果を見ると、講演・事例検討共に「とても良かった・よかった」の回答が多く、教育推進委員一同、ホッと胸をなでおろしている次第です。また、Web開催についても「便利・参加しやすい」と好評でしたので、次回以降の研修内容と共に方法も検討していきたいと思っております。引き続き、ご協力・ご支援よろしくお願いたします。

*)https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/hokenshido/2014/jireikento_report01.pdf

2021年度不妊症看護認定看護師ポストコース研修会を受講して

報告者：聖マリアンナ医科大学病院不妊症看護認定看護師 山本志奈子

2021年12月18日(土)生殖医療・現状から考える『実践力・研究力アップのための方策』というテーマのオンデマンド研修会に参加いたしました。

研修始めに聖路加国際大学青木美紀子先生の『事例検討会の勧め』の講演を拝聴しました。

講演では事例とは何か、事例提供者の心得、提供する内容、参加者と協働することなどを学び、私自身があやふやな知識のまま事例検討会を行っていたと感じました。事例検討会からさらに研究へ発展させるための方策も学ぶことができ、事例検討の重要性を再認識いたしました。

その後6つの事例ごとにグループワークを行いました。私は乳がん女性の妊孕性温存からの胚移植への意思決定支援を選択しました。

ファシリテーターを行うことになりましたが事前に進め方についても提示されており、グループメンバーの協力により進めることができました。事例検討を行う中で妊孕性温存まではスムーズに実施した方でも揺れ動く患者さんの心理的側面や、家族との関わりなどいろいろな角度からアセスメントし、目標や支援策を検討しました。事例の発展についても今後研究につながるようなものを考案できたと思います。

何よりよかったことは同じフィールドで悩みを抱えながら頑張っている仲間と知り合うことができたことです。今後不安や悩みなどあったらお互いに情報交換しようということになりました。

今回の研修は不妊症看護認定看護師同士が実践力を高め合い、対象者へよりよい支援に繋げる足掛かりになったのではないかと思います。講師の青木先生、事例を提供していただいた皆様、運営の皆様重ねて感謝申し上げます。

2022年 生殖看護関西地区実践セミナー開催のお知らせ

【日 時】 2022年4月24日(日) 13:00～16:30

【開催方法】 オンライン開催(Zoom 使用)

【テーマ】 二人目不妊カップルを支援しよう

【内 容】 ・講演

講演前半：「二人目不妊カップルの心理・生活を理解する」

講演後半：「二人目不妊カップルへの支援を考える」

講 師：坂上明子先生（武蔵野大学看護学部 看護学科 教授）

・事例検討(グループワーク)

【参加費】 会員：無料 非会員：500円

【定 員】 100名程度 先着順

【申し込み方法】 下記 URL よりお申込みください

<https://jsfnkansaikiku.peatix.com/>

【申し込み期間】 2022年2月1日(火)～2022年4月10日(日)

【問い合わせ先】 皆吉田津子 minayoshi@ivfnamba.com

※詳細は学会ホームページをご参照ください。

第20回日本生殖看護学会学術集会

- テーマ：「SDGsの視点から性と生殖の健康を再考する」
- 日程：2022年9月4日(日)
- 時間：09:00～17:00
- 開催方法：Webオンライン & オンデマンド
- オンデマンド配信期間：2022年9月4日(日)～9月25日(日)

第20回日本生殖看護学会学術集会プログラム(予定)

09:00～	開会式・オリエンテーション
09:05～09:25	会長講演「看護実践のその先へ」 西岡 有可氏(株式会社ファミワン 不妊症看護認定看護師)
09:25～10:10	教育講演「生殖看護はSDGsか」 村上 芽氏(株式会社日本総合研究所 創発戦略センターシニアマネジャー)
10:15～11:00	特別講演「不妊治療の保険適用化の動向と現状」 原澤 朋史氏(厚生労働省 保健局医療課 医系技官)
11:05～12:05	一般演題(口演発表・ポスター発表)
12:10～13:00	協賛セミナー
13:00～14:50	シンポジウム1「不妊とSDGs — すべての人の性と生殖の健康を目指して —」 大須賀 穰氏(東京大学大学医学系研究科産婦人科学講座 教授) 宮路 拓馬氏(自由民主党衆議院議員 内閣府政務官) 横井 ナナ氏(国際協力NGOジョイセフ パートナーシップグループ長) 田村 有樹子氏(株式会社サイバーエージェント 人事本部)
15:00～16:15	シンポジウム2「不妊治療は保険適用でどう変わったか」 杉山 力一氏(杉山産婦人科 理事長) 村上 貴美子氏(蔵本ウイメンズクリニック副院長 不妊症看護認定看護師) 東尾 理子氏(妊活研究会 主宰)
16:20～16:50	不妊症看護認定看護師特別企画 一般婦人科におけるCN看護相談 白田 浩美氏(茅場町いとう病院) 地域でのCN実践報告 大嶺 美幸氏(友愛医療センター)
16:50～	優秀演題賞表彰
17:00	閉会式

※プログラムは予告なく変更する場合があります。
最新の情報は第20回日本生殖看護学会学術集会公式サイト
(<https://academic-meeting.com/jsfn20th/>)をご確認ください。

学術集会公式サイトQRコード



これから行われる学術集会・研修会情報 (2022年3月～2022年6月)

月	日	学会・研修会名	会場	学会HP／運営事務局
3月	19日～20日	日本助産学会学術集会 ウィメンズヘルスを始点とする助産ケア	オンライン開催	http://jam36.umin.jp/outline.html 【運営事務局】株式会社インターグループ内 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル TEL: 06-6372-3052 FAX: 06-6376-2362
	20日～21日	日本産婦人科乳腺医学会 乳がん診療を支える架け橋 -産婦人科医と乳腺科医の未来へ繋ぐ絆-	オンライン開催	http://www.academiasupport.org/28jbsgo_greeting.html 【運営事務局】 株式会社アカデミアサポート内 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-24-7-920 TEL: 03-5312-7686 FAX: 03-5312-7687
4月	12日～26日	不妊カウンセラー体外受精コーディネーター 養成講座	オンライン開催	https://www.jsinf.com/ 【運営事務局】 レタープレス株式会社 東京営業所 〒110-0005 東京都台東区上野3丁目22番4号 MOTビル6階 E-mail: jsinf_coordinator(AT)letterpress.co.jp
5月	15日 オンデマンド 5月17日～31日	日本不妊カウンセリング学会学術集会 -がんと共に歩む生殖医療-	オンライン開催	https://www.jsinf.com/ 【運営事務局】 レタープレス株式会社 東京営業所 〒110-0005 東京都台東区上野3丁目22番4号 MOTビル6階 E-mail: jsinf_coordinator(AT)letterpress.co.jp
	29日	日本性科学学会 第51回セックス・カウンセリング研修会	オンライン開催	https://sexology.jp/seminartop.html/
6月	26日～27日	日本女性心身医学会学術集会 多職種からのアプローチ	オンライン開催	https://k-con.co.jp/49jspog/ 株式会社ケイ・コンベンション 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-27-2 山本ビル2階 TEL: 03-5367-2382 FAX: 03-5367-2187 E-mail: 49jspog@k-con.co.jp
	26日 オンデマンド 7月1日～31日	日本母性看護学会 パンデミックからのメッセージ ～母性看護へのヒント～	オンライン開催	http://jsmn24.umin.jp/ (株式会社インターグループ内) 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル TEL: 06-6372-9345 FAX: 06-6376-2362 E-mail: jsmn24@intergroup.co.jp

●●● 研究支援なんでも相談会 開催のお知らせ (将来検討委員会) ●●●

日本生殖看護学会では、**研究助成金制度**があります。研究助成金の申請はどうすればいいの？どんなふうに研究計画を立てればいいの？どのようなものを必要経費にしているの？といった疑問があり、助成金の申請をしたくても迷っている方もいらっしゃるかもしれません。また、研究データを**学会発表**したいけど、どのように分析したらいいの？抄録はどのようにまとめたらいいいの？事例を検討した結果を発表するにはどうしたらいいの？ポスターやパワーポイントをわかりやすく作成するコツって？など、研究をする上ではたくさんのわからないことがあると思います。

日頃、会員の皆様が生殖看護に関する研究について感じている疑問の解決をお手伝いします。研究助成金の申請、研究計画立案と実施、抄録や論文の書き方、パワーポイントやポスターの作成などについて、個別相談を行います。お申し込みをお待ちしています。

相談会にお申し込みの方には、ご希望に応じて、その後のフォローアップも数回行います。

- テーマ：会員のための研究支援なんでも相談会 ～研究助成金を獲得しよう！学会発表してみよう！～
- 講師：日本生殖看護学会将来検討委員および理事等
- 日時：2022年3月19日(土) 13:00～15:00
- 方法：Zoom
- 参加費：無料
- 定員：6名程度(先着)
- 申込方法：2022年3月11日(金)までに、氏名、所属、会員番号、連絡先電話番号、メールアドレス、簡単な相談内容明記の上、下記メールアドレスにお申込みください。後日、相談時間及びZoomのURLをお伝えします。

申し込み先・問い合わせ先

日本生殖看護学会将来検討委員長 坂上明子
〒135-8181 東京都江東区有明3-3-3 武蔵野大学看護学部
e-mail: a_sakajo@musashino-u.ac.jp TEL: 03-6865-1817 (直)

2022年度研究助成のお知らせ

会員の皆様の研究活動を支援する研究助成制度のお知らせです。将来検討委員会が研究助成の申請、研究計画書の作成から学会発表まで支援いたしますので、ふるってご応募ください。

申請書類は学会 HPをご参照ください。

応募締め切りは **2022年6月30日(木)まで**

研究助成募集要項

【研究助成の趣旨】

生殖看護の実践に関する調査・研究を支援するために会員を対象とし、研究費を助成し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】

個人または共同の研究者を対象とする。

【応募資格】

1. 研究代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同研究者は、申請時に本学会会員である者。

【助成金】

研究助成金は研究計画一編につき20万円を上限とし、助成件数は1～2件とする。

【研究助成期間】

2022年9月1日～2023年8月31日までの1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の研究助成申請書に必要事項を記載し、2部(正1部、副1部)を下記担当者宛に「研究助成申請書在中」と朱書きし、書留で送付する。申請書類は返却しない。
2. 応募受付期間：2022年4月1日(金)～6月30日(木)

【選考及び助成の決定】

研究助成審査会において選考審査の上、2022年8月下旬に応募者に文書で通知する。選考に関する問い合わせには応じられない。

【助成金の使途】

研究活動に必要な物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【研究成果の報告】

1. 助成を受けた者は、研究終了後、その結果を理事長に報告する。
2. 研究成果は2年以内に日本生殖看護学会で発表し、さらに日本生殖看護学会誌に投稿する。
3. 研究成果を他に発表する場合には、日本生殖看護学会の研究助成を受けたことを明記する。

<お問い合わせ・申請書類送り先>

日本生殖看護学会将来検討委員会委員長：坂上明子

〒135-8181 東京都江東区有明3-3-3 武蔵野大学看護学部

e-mail: a_sakajo@musashino-u.ac.jp TEL/FAX 03-6865-1817

理事会報告

第1回理事会

日時：2021年11月4日(木)18:00～19:55

方法：Web会議；Zoom

出席者：上澤，森明，實崎，崎山，坂上，清水，奥島，
中村，村本，野澤，小松原，森恵(敬称略)
西岡(オブザーバー)，西俣(書記)

開会の挨拶(上澤理事長)

2020年度日本生殖看護学会第4回理事会(Web)議事録及び2021年度日本生殖看護学会 新役員顔合わせ会議事録の確認。

- オンライン学術集会スケジュールに並行しての記念行事について、第20回学術集会長及び企画委員会との連携を図りながらの検討を承認。
- 講師謝金の再検討について。機会をあらため覚書を検討。
- 入会審査：5名の入会希望者全員の入会を承認。
- 2021-2023年度 各委員会幹事について、将来検討委員会5名、実践開発委員会7名、教育推進委員会2名、広報委員会2名、編集委員会3名、総務1名、会計2名を推薦、承認。
新幹事は次の通り。

【報告事項】

- 第20回日本生殖看護学会学術集会の進捗状況を報告。
- 第19回日本生殖看護学会学術集会の開催状況を報告。
- 会計より各委員会の予算額及び決算報告の方法等ルールについて説明。
- 総務より会員分布、年間計画等を報告。
- 広報委員会より令和3年度広報委員会活動計画、コロナ下での広報活動の困難さについて報告。
- 将来検討委員会より日看協認定部からの協力依頼「認定看護師の看護実践の成果に関する情報収集について」に承諾返信の報告。研究助成の応募者を増やすための方法について検討予定。
- 教育推進委員会より2021年度不妊症看護認定看護師ポストコース研修会、生殖看護地区実践セミナー企画及び助成要綱について報告。助成に際しては申請書の企画内容を精査の上、決定することを確認。
- 編集委員会より3点報告。①選任査読委員21名を決定、委嘱状送付。②学会誌次巻の投稿原稿の募集。③幹事3名を推薦。
- 実践開発委員会よりFine 祭り2021の不妊相談員派遣の報告と実施後のアンケート結果について報告。教育推進委員会の地区別実践セミナーと連携を確認。
- 看保連対応 WGより第13回情報交換会「特定行為に係る手順書と包括的指示を正しく理解しよう！」特定行為に係る手順書と包括的指示って何?の参加を報告。
- 健やか親子21推進協議会 WGより第3回母子健康手帳等に関する意見を聞く会を報告。

【審議事項】

- JSFN20周年記念企画(案)である「生殖看護テキスト」について出版社を探すことを承認。
- HP刷新に向けた業者の選定と刷新内容の検討について進めることを承認。

＜将来検討委員会＞

安宅 大輝	東邦大学医療センター大森病院 不妊症看護認定看護師
稲川 早苗	東京慈恵医科大学附属病院 不妊症看護認定看護師
勝又 由美	東邦大学医療センター佐倉病院 不妊症看護認定看護師
西岡 有可	株式会社ファミワン 不妊症看護認定看護師
糠塚亜紀子	京都光華女子大学 准教授

＜実践開発委員会＞

太田 有美	神谷レディースクリニック (北海道)
濱田 結実	スズキ記念病院(東北)
澤辺麻衣子	木場公園つくばクリニック (関東)
吉川 典子	トヨタ記念病院(中部東海)
藤島由美子	越田クリニック (関西)
定本 幸子	岡山二人クリニック (中国四国)
松尾 則子	井上善レディースクリニック(九州沖縄)

＜教育推進委員会＞

青柳 優子	順天堂大学 医療看護学部 准教授
望月 良美	東京工科大学 医療保健学部 講師

＜広報委員会＞

阿部 正子	名桜大学 人間健康学部看護学科 教授
小池 弘子	またARTクリニック

＜編集委員会＞

石村美由紀	福岡県立大学 看護学部
蛭田 明子	聖路加国際大学
桃井 雅子	聖マリア学院大学

<総務>
西俣安希子 湘南鎌倉医療大学 看護学部看護学科
助手

<会計>
山田万希子 城西国際大学 准教授
加藤友紀子 聖路加国際病院 女性総合診療部

第2回理事会開催日：2022年3月3日(木) 18:00～の
予定

事務局からのお知らせ

1. 第20回学術集会、編集委員会への問合せは、それぞれの事務局に直接お願いいたします。
2. 日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、HP、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailもしくはFaxで、気軽にご連絡ください。
3. 学会の年会費は8,000円です。会費納入は事業運用上、できるだけお早めにお問い合わせをお願いします。
4. 異動・転居された方は必ず事務局までお知らせください。住所・勤務先変更届はホームページからダウンロードできます。宛先不明ですと、ニュースレター、学会誌をお届けすることができませんので、ご協力をお願い申し上げます。
5. 会員数330名(2021年11月4日現在)です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN
〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22 東京工科大学医療保健学部看護学科内
TEL 03-5779-5032 (内線216) E-mail : jsfnjimu@gmail.com
ホームページ <http://jsin.umin.jp>
口座番号：00170-2-333414 加入者名：日本生殖看護学会

原稿を募集しています！

ニュースレターを通じて実践活動や勉強会などの情報を共有しませんか？掲載を希望される方は広報委員会(sakiyama.takayo.xk@ehime-u.ac.jp)までご連絡ください。次号の原稿締切日は、2022年5月20日(金)を予定しています。

訃報

令和3年3月に鴨狩直子様、令和4年2月に松尾七重様が逝去されました。お二方とも当学会の会員であり不妊症看護認定看護師でした。謹んで故人お二人のご冥福をお祈りいたします。

編集後記

今年4月から生殖補助医療に保険が適応されることとなります。しかし、親になりたい全ての人が享受できるとは限らず、議論の余地が残されています。制度移行期にあたる今年、私たちにとって改めて支援の在り方を模索する一年になりそうです。そう考えると、第20回学術集会のテーマ『SDGsの視点から性と生殖の健康支援を再考する』は、まさに時宜を得ています。支援の可能性を大きく広げる機会として、多くの方々に参加していただければ幸いです。

広報委員会 崎山貴代、阿部正子、小池弘子